



大阪府立大学経済学部
教授
津戸 正広氏

『コミュニケーションレポート2012』では、3つの特集記事を取り上げています。「災害対応力の強化」と題した特集1では、予測し得ない災害が起こりうるという前提で対応策が練られており、中でも災害時における高速道と一般道の相互活用のために関係府県と協定を締結したことは、地道で堅実な対策だと思えます。特集2は、「新名神プロジェクト」ですが、新名神開通後にどのような効果がもたらされるかを検証していくために、継続的に基礎データを収集しておくことが必要です。特集3は、多面的な「事業創造活動」ですが、NEXCO西日本は、ステークホルダー^①が広範囲にわたっていますので、つねに幅広く新しいアイデアを取り入れていくことが可能です。この点に関して、社内外から約4,000件以上のアイデアが集まったというのは心強いことで、実現可能なものから詰めていくという作業に期待します。

今回のレポートでも、「ステークホルダーとともに」という姿勢が貫かれています。高速道路事業をより高い次元で推進するためには、継続的な研究開発が必要ですので、この研究開発力を維持し、さらに高めていくことが肝要です。例えば、レポートでも触れられている「海外への事業展開」などにおいて、社内外の多彩な人材を活用して、大きな成果を挙げることに期待します。

最後に、「社員コメント」、「ステークホルダーコメント」という欄が随所にありますが、これがレポートに人間的な温かみを与え、また豊かな人材の育成と紹介にも役立っています。



グローバル・コンパクト・
ジャパン・ネットワーク
事務局長
宮本 武氏

この報告書には、昨年同様、高速道路という重要な社会基盤を支える企業としての社会的責任への強い認識と決意が随所に盛り込まれ、各ステークホルダーにとって必要な情報がバランスよく報告されており、感銘を受けました。特に昨年4月に発表された「中期経営計画2015」を基軸に一貫した報告がなされている点、国連グローバル・コンパクト(UNGC)10原則^②をいかに経営の中に統合しているかが明確な形で報告されている点、昨年度の事業活動の振り返りと今年度の取り組みへ各ステークホルダーのご意見を反映すべく「意見をいただく会」をこの3月に開催し詳細にその内容報告をされている点などは、特筆に値すると感じました。

その一方で、次の3点について今後ご考慮いただければと存じます。まず、トップメッセージの次に特集が報告されていますが、読者にとってはトップメッセージで大きな方向性を理解し次に企業の全体戦略を知るという流れが自然と存じます。この意味から「CSR^③に対する考え方」をトップメッセージの直後に記述された方がよかったですのではと存じます。次に、CSR課題項目の取り組み状況の中で、事業活動とUNGC等の対応表が掲載されていますが、「100%の安心安全の追及」および「災害対応力の強化」についてはUNGCの人権原則に、「公正、透明、健全な事業活動」及び「積極的な情報開示」については腐敗防止の原則にそれぞれ対応すると存じますのでご検討をお願いします。最後に、人材育成に関するご報告の中で労使関係に言及されていますが、重要な内容の割に記述が形式的であり記述量が少ないように感じました。

以上所感を述べましたが、グループ理念及び経営ビジョンを実現される中で、UNGC10原則の実効が進みますよう祈念し、結びといたします。

第三者意見を受けて

今回、昨年に引き続き、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークの宮本事務局長と、新たに、学識経験者の立場からCSRに詳しい大阪府立大学の津戸教授に第三者意見を賜りました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

まず、宮本事務局長からは、報告書の構成や、事業活動と国連グローバル・コンパクト等の対応および一部活動状況の記述の充実についてのご指摘をいただくとともに、社会的責任への強い認識等の盛り込みやステークホルダーごとの必要な情報掲載についての評価もいただきました。

また、津戸教授からは、特集記事に対するご意見やご助言をいただくとともに、報告書の作成にあたっての姿勢や社員やステークホルダーの方々からのコメント欄について

の評価をいただきました。

この他、専門家のお立場から有益なご意見等を多数頂戴しており、今後の当社のCSR活動推進において、大いに参考とし活用させていただくとともに、この報告書のさらなる充実に努めて参ります。

今後、本報告書を活用して、グループ外の皆さま方とのコミュニケーションを図るとともに、グループ内におきましても、意見交換会を設けるなどにより、CSRについて考える機会を増やし、グループ全体でのCSR活動の推進に役立てて参ります。

広報部長 **中根 正治**